第２回那智勝浦町学校のあり方検討委員会　議事録

〇日　時　　令和６年１１月２５日（月）１９：００～２１：００

〇会　場　　那智勝浦町教育センター１階会議室

〇委員名簿　　那智勝浦町学校のあり方検討委員会委員（１２人）（敬称略・５０音順）
赤岡　誠（学校運営協議会委員・宇久井小学校）
浦　勝良（学校運営協議会委員・色川小中学校）
大江清一（有識者・教育行政経験者）
岡本美智子（学校運営協議会委員・太田小学校）
尾鷲愛子（学校運営協議会委員・下里中学校）
貝岐直哉（学校運営協議会委員・那智中学校）
串　俊男（有識者・区長連合会会長）
下原陽子（有識者・町連合ＰＴＡ会長）
土佐修平（学校運営協議会委員・勝浦小学校）
古田桂造（学校運営協議会委員・市野々小学校）
安井常正（学校運営協議会委員・宇久井中学校）
米倉敏郎（学校運営協議会委員・下里小学校）

〇出席者　　委員 １２人
事務局 ３人（教育次長 中村崇、企画員 尾﨑元博、企画員 寺地強）

〇議　事　　１　開会
２　副委員長氏名
３　議事
（１）事務局説明
①第１回検討委員会会議録内容の確認
②会議録の公開について
③追加資料について
（２）協議
（３）次回会議の日程について
（４）その他
４　閉会

１　開会

２　副委員長氏名

委員長により大江委員が指名された。

３　議事

（１）事務局説明

※第１回会議録の確認。修正箇所を確認の上、意見については要約したものを公開とする。

〇事務局

追加資料の説明

（続き番号で５から７）

〇資料５「小学校新入生の推移」

前回に資料４でお配りしたのは「今後の学校全体の推移」ということで、今後の子供の数をより分かりやすくするためにということで「小学校の新入生の推移」という形で抜かせていただいた。

上段が過去の実績ということで、平成 28 年から令和６年までで、この平成 28 年というのは現在の中学３年生に当たる。現在、在籍の児童生徒が平成 28 年から令和６年までで、今後の推移というところは、来年度（令和７年度）から、前回提示資料にあるように令和 12 年度までということで算出したものである。こちらについては令和６年４月１日現在の住民基本台帳人口の数値を参照ということで、４月以降の移動、その校区外から来る方は見込んでいないため、実数は違ってくる。その辺はご了承いただきたい。

現在、特に新入生も減っており、単純に今小学校、中学校合わせて 800 人ほどである。９学年で考えると、基本的に 90 人前後あれば今の形態を維持していくという形になる。町としても目標は 80 人というところを挙げているが、今年度については 83 人だが、令和７年度は 65 人、令和８年度は 68 人、令和９年度は 42 人、令和 10 年度は 57 人、令和 11 年度は 37 人、令和 12 年度は 50 人とこういった形で推移している。この数字をもとにこの前算出したのが、資料４の数字になる。

〇資料６「令和７年度小・中学校学級編成基準」

区分としては、単式学級、一つの学級の区分となる数字である。小学校なら 35 人、中学校なら 40 人。複式学級、これは２クラス（2 学年）ということになる。小学校なら 16 人、ただし 1 学年を含む場合は８人というふうになっている。中学校なら８人で学級が編成される。特別支援学級も８人で 1 クラスとなっている。

単式学級のところの小学校の数字だが、こちらは元々40 人だが、令和３年度から５年間で段階的に２年生から順に６年生までを 35 人に引き下げてきており、令和７年度でちょうど 1 年生から６年生まで 35 人編成ということになった。36 人からが２クラスになる。

中学校に関しては 41 人から２クラスということになるが、令和６年度については県独自の運用により 35 人で 1 クラスである。あくまでも令和６年度ということで、令和７年度については未定なので基本の数字 40 人 1 クラスとしている。これが学級編制の一つの基準になるものである。

〇資料７「令和６年度小・中学校教員定数配当表」

この資料は学級数によって配置される教員の数になる。これについては、教頭先生も含めた一般教員の数となる。１学級というのは、小学校の場合なら、６学年で一つの学年しかない状況のことである。例えば複式学級が３組あったとしたら、３学級となる。その場合は、小学校では配置が４人と、そういう見方になる。単式学級が６学年それぞれある場合に関しては、小学校では７人、全児童数によっては８人ということになる。これが複式学級になると、当然クラス数も減るため、順番に減っていくような形となる。中学校なら、それぞれの学年に単式学級がある場合だったら、３学級ということになり、教員の配置は７名。複式学級が入った場合は５名となる。もし一つの学年しか中学校でなくなってしまうと、１学級につき中学校で教員が３名という形になる。中学校の場合は専科になるため、基本になる５教科の先生が配置できない可能性もあるという意味の資料になる。

今後の新入生の推移というところをみると、現在、複式学級を導入しているところについては、市野々、色川、太田の 3 校だが、今後、下里小学校についても、人数次第では複式学級という形になっていく可能性がある。

（２）協議

〇事務局　前回の会議で、できるだけ多様な意見を出していただくということで、ワークショップという形を提案した。前回の協議の内容から「地域にとっての学校」「児童生徒の立場から考えた学校のあり方」と、大きく分けると二つのところに絞られるかと考えられる。そこで「地域にとって学校のあり方」と「児童生徒にとっての学校のあり方」二つの視点から協議を行う。こちらで班分けをさせていただいた。小さな学校と大きい学校とでは自分の学校のところ以外の様子は分からないと思うので、別の班になるように混ぜた形で班分けを行っている。

※事務局の進行により「地域にとっての学校のあり方」、「子どもたちにとっての学校のあり方」の２つのテーマについて３班に分かれて協議。

～～～ワーク「学校のあり方（地域にとっての学校のあり方）～～～

（ワークのまとめを発表・交流）

〇１班

・地域の歴史を子供たちに教えられる、歴史文化の継承の場であるという意見が出た。
・学校を開くことによって地域の人にも来てもらえる場であることによって繋がりの場。
・多世代の交流、子供たちと高齢者の交流などができる場所で、学校はそういう場所。
・学校があるから移住が促進できる。
・子供たちの声が聞こえることによって地域が活性化する、地域のエネルギー源である。
・放課後に遊ぶ場、子供たちの拠点になっている。
・学習機会として提供されている場所
・給食によって子供たちの安全を保障できる場

〇３班
・キーワード的には「地域と繋がりをつくるハブ的なもの」
　⇒　防災訓練、運動場で遊ぶ、子育てが終わった人も集まってくる憩いの場
・伝統文化の継承という意味で祭りに参加しているというところもある。
・上記全てに学校が絡んでおり、学校を介して地域という役割をしている。
・キーワード的に全部が交わる中で、学校というものがあるのではないか。
・補足として、地域との交流というところも学校参観で来てもらうというところもあるのですけれども、それも全て「学校」がキーワードとして共通項目の一つになっており、そこから地域の何らかの役割が、学校を介してまた地域に反映していくというような感じになっている。

〇２班
・地域の文化を学べる場
・地域の人との密着できる場
・（地域の人々の）交流の場
・地域全体で学校や子供たちを一緒に見守り、しつけ、教育等をしていくことができる。
・学校を介して地域との情報の共有ができる。
　※　基本的にこのテーマでデメリットのようなものは出ず。

～～～ワーク「学校のあり方（子どもたちにとっての学校のあり方）～～～

（ワークのまとめを発表・交流）

〇２班
・子どもたちが学校へ期待していることとして、友達ができる、部活がしたい、集団生活で人格や個性を形成される等、総じて学校が楽しいものとなったらいいなという期待がある。
・少人数校の善し悪しとして考えたときに、複式学級だと時間が半減されるが、良いところとして、自主性が出てくる。また、先生の目が行き届くなどのメリットがあると思う。悪いところとしては、子どもが少ないとどうしても偏差値がわからないということがある。子どもが４人しかいなかった場合に、４位の子がどの程度の位置にいるかが全く分からなくて、中学校へ行ったときにこのぐらいの位置だったんだと思うこともあった。体格の大きい小さいも、４人ぐらいだとどうしてもこの子は大きいかどうかいうのが分からなかったりすることもあった。「運動競技がなかなかできない」「協調性、社会性が培われない」という点があると思う。

〇３班
・大まかに言うと「いろいろな経験を積むというところ」と、「学ぶというところ」の二つに別れた。
・「いろいろな経験を積むというところ」と、「仲間の遊ぶところ」によって、経験値、体力面だけでなく、人とのコミュニケーション的なところもあればというところもある。

・「地域の魅力を感じる場」というのは、例えば地域の行事ごとに出て行ったり、地域との関わりの中での伝統文化の継承もそうだが、学校の授業の一環として、こういったところを学ぶ、経験する。
・人とのやり取り等になってくるので、自分と他者との違いというところ、家族以外のところとの人間関係を学ぶ。
・知識を学ぶところ
・人格形成や、いろんな恋話等を学ぶ

〇１班
・「早く学校に行きたい」だとか、「日曜日になったらもう早く明日になってほしい」だとか、そう思ってもらえるような楽しい場所であってほしい。
・体育だとか、給食だとか、そういったところで体をつくる場所である。
・安全だとか、困ったことが何でも相談できる、そういった安全保障の場であってほしい。
・一番多く出た意見だが、家ではできない体験ができるだとか、友達ができるだとか、その友達の価値観に触れることで、価値観が広がって世界が広がり、一人ではできない、家ではできないような体験の中から価値観が広がるような、そういった場所であってほしい。
・先生以外の人からも学べる機会があってほしい。児童だとか生徒の中でも、高学年だとか低学年との交流だとか、先生、地域の方、そういったところと、たくさんの一緒の体験ができて、価値観が広がる場所であってほしい。そういった価値観を「考え方の育成」とまとめたが、そういった価値観を伸ばせる場だとか、自分の考える力を育てる場であってほしい。
・地域の情報だとか、新たな情報が提供される場所、取得できる場所、その情報の活用方法を学べる場所であってほしい。今回の兵庫県の知事選等でもあったがSNSを通じたいじめをなくす、そういったいじめのないような体制をとってほしいだとか、情報についても正しい情報へのアクセスというのがすごくコストがかかる時代になってきているので、そういった取捨選択というのもできるような場所、社会のマナーが学べるだとか、人権教育というのは必ず念頭に置いてほしい。
・子供たちが地域の一員であるということを感じ取れる場所であってほしい。対話の作法だとか放課後の遊び場というところで、一緒に何かをできる体験に繋がってくるのかと思うが、協働の学びができる場所でもあってほしい。
・先生方へのお願いとして、先生方もチームワークを発揮して、一人に任せるんじゃなくてチームワークで子供たちに接してほしい。

〇事務局
　本日お話しいただいた意見をもとに、次回のお話しいただくところを整理させていただく。

〇委員長　ありがとうございます。
　たくさん皆様から意見等を今後のあり方という形で出していただいた。事務局の説明にあったように、これをもう少し練って次回に繋げるようにしたい。

※資料への質問・その他意見等

〇委員　複式学級について、２学年が一緒になるイメージを持っていましたが、中学生８人というのは、３学年で１クラスになることはあるのか。

〇事務局　ない。２学年までというきまりになっている。色川中学校は人数的には複式（２学級扱い）だが、単式化している。ただ、教員の人数自体は、複式での人数しか配当されない。その中で工夫として学年化している。

〇委員　教員の配置について、講師も教員と同様に配当されるのか。

〇事務局　講師は、例えば正規の教諭が入らないところに欠員補充という形で入ったりするので数は同じである。学校によっては、特別なプラスっていう場合も条件によってはあるが、基本的にはこの数が国の決まりである。

〇委員　学校の校区について、色川の妙法小学校の統廃合時に児童が色川小学校、市野々小学校のどちらの校区にするかということで、保護者の希望により市野々小学校に決まり色川地域から市野々小学校へ通うことになっていた。その子ども達が卒業し 20 数年子どもがいなかった旧妙法小学校区域に、数年前子どものいる家族が移住してきた。その際に保護者の意向で、市野々小学校校区から色川小学校校区に戻してもらった。柔軟な校区変更は地域にとってもありがたい。

〇委員長　校区外に通う場合、特に申請とかそういう形になるのか。しっかりとした理由が必要か。

〇事務局　その通りである。理由を書面で申請し、教育委員会に諮る。１回で通らない場合もある。また、必ず認められるわけではない。

〇委員　少人数校が嫌だから、違う学校へ行きたいっていうのは通るのか。「複式学級が嫌だから」は通るのか。

〇事務局　基本的には通らない。

〇委員　この「あり方検討委員会」で、そういった意見、そういう学校のあり方がいいのではないかという答申を出すことはできるのか。

〇委員長　そういう意見があったというのはそれも含めて考えていきたいということではないか。このあり方委員会は、様々な世代が、今の教育事情、先輩方の当時の教育事情と全く違う中での意見の合わせあいである。規模もそれぞれ違うので、そういう意見をどんどん出してもらって、それをまとめても、今年度で全て決まらず、次年度、あるいはもっと何年も続く可能性もある。様々な状況を踏まえて段階的に話をしていく場だと思う。それぞれ良い悪いでなく考え方や意見が違う中で、本日のワークショップでは、ある程度参加者の中で意見もまとまるところもあっただろうし、意見の違うところもあったかと思うが、そういう場を持つ会だと思う。まだ２回目で、今後どういうふうに絞っていけば良いのか、進めて良いのかというのは、非常に難しいところだが、それを想定して進めていきたいと思う。今後、参会者の協力をお願いする。

〇委員　検討委員会の発足について、ホームページ公開ということだが、マスコミ・議会への報告はどうするのか。

〇事務局　当初予算の議会で説明している。また、委嘱する前にこういう形で進めさせていただ

くということは、委員会のほうでは報告している。

○委員　委員会の発足も含めたＰＲ、宣伝をしておかないと、ホームページ見る人もみない人もいるので、出すものは出しておく方が良いかと思う。

そういう意味では私も「２月締め」ということであまり意見が散らばらないように、最後は何とかまとめられたらよいなと思っている。細かい様々なこと、複式が良いとか悪いとか、そういうことについては３回ほど県や国、審査会等から出ている。方向としてはそういう大きなものがあるわけで、誰が考えてもそういう方向になっていかざるを得ないところがあると思う。

先程、色々聞くと、教育長はそうでもなく、那智勝浦町全体としてあり方というのを求められているというふうにも取れる。

ただ、やはり地域の特性があるわけで、それを全て一緒にこの委員会でするというのはなかなか厳しいと思う。ですから、宇久井は宇久井でニュータウンはものすごく増えているが、これからどんどんどんどん人口が減っていく。下里にしても、仮に太田とまとまっても、まだまだ減ってく状況がもう目の前にはっきり見えてあるわけですから、そこら辺りを教育委員会としても、今年度でこのあり方検討委員会を次はどう持っていくかというのは、やはり基本方針を出すべきではないかと思う。いずれその問題が出てくる、問われるときは来ると思う。そういう意味で、やはりマスコミ等へも（この会が）発足したということぐらいは、きちんと伝えておく方がよいのではないか。

○事務局　会議録の承認とともに、報道にも伝えようと考えている。

（３）次回会議の日程について

１月２７日(月)　午後７時から教育センター１階会議室で開催されることとなった。